子供地球基金 No.69 Newsletter

2018.02.22-03.02　イスラエル　パレスチナ
パレスチナ自治区ジェリコの子どもたちと

　ヨルダン川西岸、パレスチナ自治区ジェリコの国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)学校での絵を描くワークショップを開催致しました。ジェリコは海抜マイナス260mにある、世界で最も低地に位置し、また世界で最古の都市といわれています。米国のUNRWAへの拠出金凍結の波紋や、校長の度々の人事異動など、不安定な状況の中、スクールカウンセラーやコーディネーターの協力のもと開催が叶いました。男の子も女の子も愛情表現がとても豊かで、一日にあれだけ"I love you!"を言われることはこの先もうないのではと思うほどでした。

　今回、ご協力を頂いたUNRWAのパレスチナ支援は70年間ずっと続いていて、難民たちは支援されることを当然に感じ、自分たちを支援されるべき立場と信じ、寄付や支援を更に更にと要求するなど、自立から遠ざかっている印象でした。彼らが今の生活や困難から抜け出す為に必要とされていることは、物資や食糧などの支援だけではないことは明らかでした。

パレスチナ自治区ジェリコ

絵を描くワークショップでは、自由や希望、安息を感じられる家やモスクを描く子が多くいました。また、ジェリコにある2つの難民キャンプのうち、Aqbat Jabrキャンプを視察しました。市街を一望できる丘から、川の向こうにヨルダンが見えます。ジェリコは水資源が豊富で、農作物を求めて近隣各地から人が訪れます。人と物の移動が制限され、そのような意味でも子どもたちが沢山絵に描いていた"freedom"とは遠い環境です。

パレスチナ自治区ジェリコ

2018.02.22-03.02　　トルコ イスタンブール
シリア難民の子どもたちと

イスタンブール・バージュラル地区にて、コカ・コーラ株式会社と赤十字トルコの協力のもと、シリア難民の子どもたちと絵を描くワークショップを行いました。最初とても大人しく、一色使っただけで筆を置いていた子どもたちに、もっとたくさん色を使っていいのよと声をかけると、最後には色とりどりの作品が出来上がりました。ワークショップのあとはみんな学校に行くと言っていました。慣れない土地で、トルコ語も頑張って勉強しています。

トルコ イスタンブール

トルコ イスタンブール

トルコ イスタンブール 2

2018.02.22-03.02　　クロアチア グボーズド市

キッズアースホーム クロアチア

　キッズアースホーム クロアチアでのワークショップを行いました。ホームには世界各国からボランティアが集まります。ホームに来る子どもたちの中には、家庭で親が十分に子どもたちと会話をしないことが影響し、語彙が少なくうまく会話ができなかったり、両親の失業やネグレクトにより健康な三食の食事をとっていない子どもなどがおり、家と学校の往復以外に、アートワークショップ等、自由な表現活動とコミュニケーション能力を養う為の心のよりどころとなっています

　３月の外の気温は氷点下。寒さや厳しい家庭環境に負けず、ワークショップでは、とびきり明るいポートレイトが出来上がりました。

　紛争が終結してから23年が経とうとしていますが、未だ失業率は高く、貧困などの理由からアルコール依存症・薬物依存症、家庭内暴力などの問題が絶えないのが現状です。

2018.01.30-02.01 ｜ ベトナム ホーチミン市
キッズアースホーム ベトナム

　キッズアースホームベトナム にてワークショップを行いました。このホームには家族と生活が出来ない30人の子どもたちが生活しています。また、100人の子どもたちが勉強の為にホームに通い、学校の役割も果たしています。
　ベトナムは車も増え、高層ビルが建ち並び、大きく発展してきていますが、その影にはまだまだ環境の整っていない劣悪な環境の中で生活をしている子どもたちが多くいます。
　成長した子どもたちがホームを出る時には、屋根のある家に住み、仕事に就ける保証もありません。
　アートワークショップでは、子どもたちは世界中の人々が手を繋いでる絵を描いていました。

30周年記念プロジェクト「子どもたちが子どもたちを救う」
“自分の顔の絵を描こう”

2018.01.30-02.01　カンボジア プノンペン市
キッズアースホーム カンボジア

　56人の子どもたちが暮らすキッズアースホーム カンボジアにて絵を描くワークショップを行いました。日本の歌を歌い、迎えてくれた子どもたち。一生懸命覚え、練習してくれたようです。

　難しい日本語を覚えて力があり、一生懸命に学びたいという想いがあっても、識字率も低く、十分に勉強ができる環境がまだ整っていません。

　子どもたちが未来に希望をもてるような世界になるよう、願うばかりです。

2018.01.30-02.01　カンボジア プノンペン市
キッズアースホーム カンボジア

　同じ地球に生きる仲間として、地球人の一員としてできることは何なのか？子供地球基金は常に、子どもたちと共に考えています。その答えのひとつが、絵を描くこと。子どもたちが描く絵は海を渡り、世界の困難な状況を強いられている子どもたちを励まし救っています。さらに、子どもたちが絵を描きその絵が基金となって他の子どもたちを救っていく。まさに子どもたちが子どもたちを救う活動です。

　子供地球基金が30周年を迎えるにあたり、子どもたちが主役の「子どもたちが子どもたちを救う」活動に参加し、未来を担う子どもたちの顔が一つになるプロジェクトを立ち上げました。

　絵を描くワークショップでは、子どもたちが未来の地球や大切にしていきたい地球を考えながら、そのメッセージを社会に発信していきます。描くことがボランティアになり、子どもたちが参加出来る社会貢献の一つの形です。

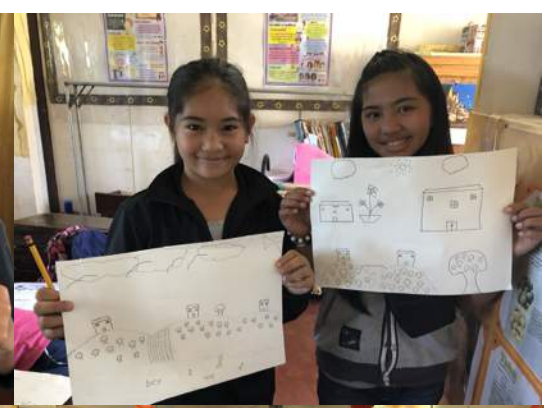
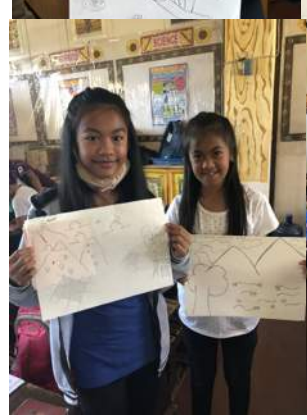
　カンボジアの孤児院の役割をするキッズアースホームでは、元気いっぱいに様々な色を使い、自分の顔を描いていました。

2018.01.30-02.01　カンボジア プノンペン市
キッズアースホーム カンボジア

以前は、雨の日は校舎が雨漏りで休校になってしまっていたため、ワールド航空サービスのスポンサーの元、子供地球基金が再建した小学校です。現在では4歳から12歳の585人もの子どもが通っています。この小学校で美術の授業は無く、ワークショップの時が子どもたちにとって唯一の美術の時間です。小学校に入りたての子どもにとっては初めて見る絵の具。恐る恐る、しかし目を輝かせながら絵を描いていました。子どもたちの思いがキャンバスいっぱいに咲きました。

幼い頃にお父さんを亡くしてしまった7歳の女の子は、ワークショップ中は参加せずに遠くから眺めていましたが、片付けをしていると興味津々に近づき、筆を渡すとキャンバスを色で埋めていきました。先生に終わりと声をかけられてもしばらく筆を離しませんでした。

2018.01　フィリピン ベンゲット州
フィリピン

フィリピン ベンゲット州 ビラク小学校にて、絵を描くワークショップを行いました。ユリエル・コロマ氏の協力により、フィリピンの子どもたちに画材を届け、絵を描くワークショップを開催しています。子どもたちは、「Kids Helping Kids ー子どもたちが子どもたちを救うー」活動について知り、誰かの力になりたいと、一生懸命に絵を描いてくれました。

フィリピン ベンゲット州では未だ支援を必要としている家庭が多いですが、子どもたちはよく勉強し、「先生になりたい」「お医者さんになりたい」等の夢を持って生活しています。

2018.01-03 東北被災地
キッズアースホーム東北を基点に

震災直後、宮城県亘理郡にある亘理中央児童センターの館長でいらっしゃり、現在はご退任なさった渡辺 れい子氏に、東北支部の支部代表にご就任頂きました。渡辺氏は、長年子どもたちと接してこられたご経験と地域の方のネットワークを活かし、以前より更に、地域に根付き、様々な場所でのワークショップを展開しています。

2018年に入り、3月7日現在までに、4回のワークショップを開催しました。震災から７年が経ち、子どもたちも成長し、世代交代もある中、子どもたちも親御さんも、ワークショップを楽しみにされていらっしゃいます。今後も、支部代表 渡辺氏の協力の元に、子どもたちに表現することの大切さを伝える為、活動を継続して参ります。

日程	場所	内容	参加人数
1/5	角田市桜児童館	お茶会と絵を描くワークショップ	18人
2/13	岩沼市北児童館	好きなものを描く	17人
2/15	角田市桜児童館	好きなものを描く	25人
2/16	キッズアースホーム東北	30周年記念 「自分の顔を描こう」	5人

アーティスト兄弟誕生！
兄が「アルボナース®」を、弟が修正テープをデザイン！

被災直後の小さい頃からたくさんのワークショップに参加してくれている9歳の男の子に話を聞いてみました。自分が描いた絵が商品になると決まった時の様子について聞いてみると、「電話がかかってきて知ったんだ。びっくりした」と笑顔で話してくれました。また眼科に行った時、自分の絵がついたアルボナース®を見つけて、「本当だったんだとうれしくなった。たくさんの人に使ってほしい」と思ったそう。
さらに弟の絵も修正テープに採用されて、ふたりともとっても誇らしげ。今やふたりは アーティスト 兄弟です。

2018.01-03 熊本被災地
仮設住宅にて、アートワークショップ

昨年10月には熊本地震被災地の仮設住宅の入居期間が１年延長される方針が発表されました。仮設の入居は原則2年間ですが、熊本地震では今も約1万8000戸の仮設住宅で被災者の方が暮らしています。災害公営住宅の整備は、遅れていて、元の場所に住宅を立て直し、自力再建を目指す被災者の方もいらっしゃいますが、資金の目処が立たないことや建設業者の人手不足で難航しています。熊本県は2020年までに、仮設住宅から災害公営住宅など新しい住まいへの移行を終える方針で、子どもたちも先の見えない生活に言わずともストレスを感じているようです。赤ちゃん返りや以前より落ち着きがなくなった、いつもは無かったアレルギーが出るようになった等お話を耳にします。

熊本県木山仮設団地でのワークショップでは、遊べる場所も限られ、エネルギーの有り余った子どもたちと元気に絵を描くワークショップを行いました。何度も同じ場所に同じ色を重ねてしまう子どもや、お友達の作品を邪魔してしまう子どもたちもよく見受けられます。子どもたちが早く精神的な落ち着きを取り戻し、のびのびと暮らせる街に戻って欲しいと願います。

▲木山仮設住宅

▲益城町児童館

日程	場所	内容	参加人数
1/19	益城町 第三保育所	好きなものを描こう	20人
1/19	益城町児童館	自分の顔を描こう	5人
1/20	児童養護施設 広安愛児園	自分の顔を描こう&好きなものを描こう	18人
1/20	木山仮設住宅	自分の顔を描こう&好きなものを描こう	5人

▲益城町 第三保育所

児童養護施設 広安愛児園

▼児童養護施設 広安愛児園

▼児童養護施設 広安愛児園

2018.02.08 メキシコ大使館
KIDS EARTH FAND Charity Party at Mexican embassy

メキシコ大使館のご協力により、メキシコ大使館にて、チャリティーパーティーを開催致しました。皆様のご支援により、支援を必要としている子どもたちの為に、20万9,700円ものご寄付が集まりました。会場内の壁一面に飾られたメキシコ人の子どもたちによって描かれた作品を、皆様にご覧頂きながら、メキシコ大使夫人のウェルカムスピーチを賜りました。

ゲストの皆様にはコカ・コーラ イースト ジャパンよりご協賛を頂戴しましたソフトドリンク、ルミエールより頂戴しましたワイン、オ・ヌアージュより頂戴しましたワインをお楽しみ頂きました。

困難な状況にいるメキシコ人の子どもたちの明るい未来を願い、会場一体が一つとなる温かい一夜となりました。皆様より頂戴しましたご寄付は、メキシコそして北米ソノマ郡で暮らすメキシコ人の子どもたちの為に大切に使わせて頂きます。

■開催日時　：　2018年2月8日（木）18:00〜20:00
■会　　場　：　メキシコ大使館
■来場者数　：　約70名
■収 益 金　：　総額20万9,700円
■特別協力　：　メキシコ大使館
■主　　催　：　子供地球基金KIDS EARTH FUND

2018.01-03 小児病棟
入院して、よかった。

小児病棟で入院している子どもたちとの絵を描くワークショップを毎月行っています。

毎月、違う病棟に入り絵を描くワークショップを開催している神奈川県立こども医療センターでは、病院で様々な制限を受け、病気と闘っている子どもたちは、絵の具を使って絵を描くと「気持ちがすっきりした」「病院に入院してよかったと思うくらい楽しかった」などと話してくれます。現在、慈恵医大病院は感染症の流行の為、プレイルームを閉鎖していますが、春先には開催が再開できる予定です。

2018年の現在までのワークショップ開催実績

2018/1/5	角田市 桜児童クラブ	Sakura Children's club in Kakuda-shi
2018/01	グアテマラ	Guatemala
2018/1/10	フィリピン ベンゲット ビラク小学校	Elementary School, Benguet, Philippines
2018/1/15	神奈川県立こども医療センター　クリーン病棟	Kanagawa Children Hospital
2018/1/15	神奈川県立こども医療センター　肢体不自由児施設	Kanagawa Children Hospital
2018/1/19	第三保育所　熊本被災地	Nursery School at Kumamoto disaster area
2018/1/19	益城町児童館 熊本被災地	Children afterschool at Kumamoto disaster area
2018/1/20	広安愛児園　熊本被災地	Children's home at Kumamoto disaster area
2018/1/20	仮設住宅 熊本被災地	temporary houses at Kumamoto disaster area
2018/2/6	神奈川県立こども医療センター	Kanagawa Children Hospital
2018/2/8	メキシコ大使館	Mexican Embassy
2018/2/13	岩沼市　北児童館	North Children afterschool in Iwanuma-shi
2018/2/16	角田市 桜児童クラブ	Sakura Children's club in Kakuda-shi
2018/2/17	キッズアースホーム東北	Kids Earth Home Tohoku
2018/2/22	グローバルキッズメソッド　間々田店	Global Kids method
2018/2/23	クロアチア　キッズアースホーム	Kids Earth Home in Croatia
2018/2/25	パレスチナ　国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)Ein el-Sultan学校	Ein el-Sultan UNRWA school in Jericho, Palestine
2018/2/28	トルコ イスタンブール 赤十字トルコと共催でシリア難民の子どもたちと	Red Crescent in Istanbul
2018/3/6	神奈川県立こども医療センター	Kanagawa Children Hospital

今後のアートワークショップ予定

3月11-18日　プエルトリコ
児童館 東北被災地
4月7, 8日　日本橋
20, 21日　東北被災地
5月11, 12日　熊本被災地
メキシコ地震 被災地
東北被災地
6月　アメリカ・ソノマ州火災被害地域
東北被災地
7月　東北被災地
8月　フィリピン

2018.02.27　ハープ演奏会
ハープの絵を描こう 栃木県小山市

　発達障がいをかかえる子ども達が通う栃木県小山市のグローバルキッズメソッド 間々田店にて絵を描くワークショップを行いました。

　子どもたちは言葉では上手く表現が出来ない気持ちを表現し、集中して一生懸命に描いてくれました。グローバルキッズメソッド 間々田店は絵を描くことを通し、子どもの自信へと繋げる取り組みを行なっています。

　今回子どもたちが描いた絵は、2月27日に開催されたハーピスト 斎藤 葉氏による "ハープの未来"にて展覧され、多くの方にご覧頂きました。自分の描いた絵が展覧されることを通じ、子どもたちの自信へと繋がりました。

2018.03. 12 リヤドロ ウィメンズ アワード 2018
代表 鳥居 リヤドロ ウィメンズ アワード 受賞

　この度、子供地球基金 代表 鳥居晴美がリヤドロ ウィメンズアワードを受賞致しました。これもひとえに、日頃よりご支援下さっている皆様のお陰と感謝致しております。そして、ご支援下さっている皆様と共に頂く賞だと思っております。特別授賞式に当たり、3月12日（月）にリヤドロ ジャパン主催による、チャリティーガラパーティーが開催されました。 このチャリティーガラパーティーの収益金は子供地球基金に寄付されます。

アメリカ ロサンゼルス支部

　アメリカ ロサンゼルス支部が立ち上がり、弁護士や会計士との打ち合わせを行いました。子供地球基金、一枚目の絵を描いた志村 星がロサンゼルス支部 代表に就任致しました。3月12日からプエルトリコの支援、来月以降にメキシコ、アメリカ・ソノマに再度支援に入り、画材の寄贈と絵を描くワークショップを行います。

弁護士との打ち合わせ

理事 Matt(左) 志村 星(右)

バルセロナ支部　大野 ゆり子

　第一号となる、キッズアースホームクロアチアを一緒に立ち上げた大野 ゆり子がバルセロナ支部 代表に就任し、バルセロナを中心に活動を広く発信します。

バルセロナ支部 代表 大野 ゆり子

ブルガリア支部　ジョン・キム

　ブルガリアの支部では、ジョン・キムが代表に就任し、絵を描くワークショップ等を主宰致します。3月下旬には、ブルガリアにて、30周年プロジェクトの絵を描くワークショップを開催予定です。

ブルガリア支部
ジョン・キム

THANK YOU FOR YOUR SUPPORT
DR. SUMIKO IWAO

子供地球基金 顧問 岩男 寿美子先生が1月11日朝、突然ご逝去されました。昨年12月の顧問委員会ではお元気なお姿を見せられていらっしゃいました。

２年前には、岩男先生が立ち上げられたさくら中学校の子どもたちと絵を描くワークショップを開催してくださり、絵を描いたことのない子どもたちが初めて、色鉛筆やペンを使い、絵を描くなどの経験ができました。長きに渡り、顧問として、ご支援を頂きました岩男 寿美子先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

大野 和士氏
フランスの芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲

この度、子供地球基金 顧問であり、都響音楽監督・大野 和士氏が、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲されました。また、同時にリヨン市特別メダルを授与されました。

オフィシエは3段階ある文化勲章のうち2番目の位。芸術・文化の普及に貢献した人物に授与されます。今回の大野氏の受章は、9年にわたるフランス国立リヨン歌劇場首席指揮者としての活動が高く評価されたことによるものです。折しも、大野氏指揮フランス国立リヨン歌劇場によるプロコフィエフ『炎の天使』公演が、フランス批評家協会によるクロード・ロスタン賞を受賞することも発表され、

マエストロのフランス国立リヨン歌劇場との最終シーズンは華々しいものとなりました。**三不**受勲を記念した祝賀会では、子供地球基金の作品「チェロを弾く男」のエコバックを作成してくださり、ご参加されていた皆様に子供地球基金のクリスマスカードと共に配られました。

新規会員のご紹介(2018年1月1日～3月15日)

法人会員　日乃屋カレー(有限会社ノアランド)

個人会員　キムリカ 研様　小松原　貴美子様　高橋 郷子様　萩原　伸一様　ムカイヤマ　タダフミ様　村山 早苗様